

亀山市議会議長 岡本 公秀 様

調査研究報告書

会 派 名	公明党
報 告 議 員 名	森 美和子、新 秀隆
調 査 日	令和7年7月25日
調 査 目 的 等	奈良県大和高田市「市民交流センターの防災対策機能について」
<p>[概要]</p> <p>大和高田市は、奈良県の北西部に位置する人口約61,000人の市である。県内12市の中で最小(16.48km²)の市域を有している。鉄道網が整備されており、大阪へも約30分ほどで行け、立地としても優れている。市内には、葛下川、高田川、葛城川の一級河川をはじめ、多くの河川があるが、2本の一級河川が天井川であることから水害の危険性がある。</p> <p>視察先の「市民交流センターコスモスプラザ」は、平成28年に開設された地上4階建ての施設である。人口減少等の課題から、市民協働の拠点として建設されている。1階は駐車場と子どもが遊べる遊具がある芝生広場、2階は誰もが利用できる交流スペースとなっている。他に市の総合事務所も設置されている。3階は子育て支援センターと託児所の他に保健所や消費生活センターなど県の事務所が入っている。4階は多目的室や高齢者の相談室となっている。</p> <p>一方で、令和3年7月に新庁舎が建設されるまでは、旧庁舎の耐震化が図られていなかったことから第二災害対策本部の設置場所として想定されていた。</p> <p>市民交流センターの防災機能として、地下に大型浄化槽、140tの雨水貯留槽(通常時もトイレ等に使用)、防火水槽、オイルタンク(重油5,000ℓ)、耐火性貯水槽(40m³ 災害時等緊急遮断弁が作動)、受水槽(18m³)が整備されている。</p> <p>また、市域が都市ガスのため1階にはLPガス収納庫があり、緊急時にはPAジェネレーターを作動させることでLPガスが稼働できる。また炊き出し室には、炊き出し機器7台が常備されている。</p> <p>各フロアには、備蓄倉庫が設けられ、資機材とともに備蓄品が保管されている。屋上には、発電装置と太陽光パネルが設置されており、周辺地域の拠点としての装備がされている。</p>	

(続紙)

[所感]

大和高田市は、135自治会に自主防災組織は56しかなく設置率は高くない。亀山市の設置率の方が高いが、どちらにしても機能しているかどうか重要であり、その点については担当職員との共通認識であった。資機材等については、3年に一度自主防災組織に対して上限20万円で補助している。

訪問した市民交流センターは、災害時に必要な機能が全て備わっていたが、避難所として指定はされていなかった。当初の災害対策本部の拠点として活用予定であったためである。今後見直しを行なっていくようだ。今回、特に注目したのは、公共下水道が整備されている地域で浄化槽を設置している点である。災害時に公共下水道が使えなくなった時を想定して設置されたが、法改正されたのは設置の翌年であった。現在では、災害時に限り公共下水道の整備地域での浄化槽の活用は許可されている。しかしながら、普段使わない浄化槽を維持管理していくことが大きな課題である。市民交流センターは年間15万円の維持管理費が発生していると聞いた。しかも、現在までに一度も利用する機会はなかった。

視察を終えて、亀山市内の防災倉庫には、備蓄品や資機材が揃っているが、災害時にそれぞれの避難所に運ばなければならない。日常防災と言われるが、いざという時に避難所で直ちに活用できる備蓄品や資機材等を各避難所に充実させていくことが今後必要ではないかと感じた。さらに水の問題、燃料の問題は検討が必要ではないかと感じた。市内の避難所のあり方を再チェックする必要があるように思う。1番必要なトイレの問題は課題として残ってしまった。維持管理の問題も含め、今後さらに研究していきたい。

(続紙)

